

地球の明日を見つめて



自然の偉大な営みから生まれる水。
この素晴らしい贈り物を守り
次の時代へ引き継ぐために
私たちに
何ができるのでしょうか。

地球温暖化をはじめとする環境問題は、私たちが早急に取り組まなければならない世界共通の課題です。

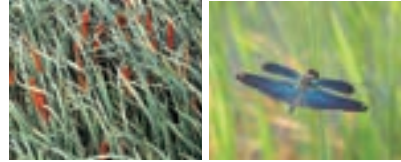
企業団は施設周辺の生態系を守る取り組みや河川の環境保全など、自然を守る取り組みを行っています。

一方、省エネ活動をはじめ、効率的に水道水を供給するための運転管理の徹底など、「環境への負荷の少ない水づくり」にも取り組んでいます。

今後も、「水道事業はすべて自然環境の中で成り立つ」という考えのもと、県民と協力した水源環境を守る運動や、クリーンエ



ネルギーの積極的な活用など、すばらしい地球環境の明日を考える努力を続けていきます。



ビオトープで見られる生き物たち
 ビオトープではコガマ(写真左)やチョウトンボ(写真右)をはじめ、多様な動植物を観察することができます。

自然を守り、自然と共に生きる

施設周辺の生態系への配慮

ビオトープ 社家取水施設の敷地内に相模川の湿地帯を再現したビオトープがあります。河川流域に生育する動植物の生育環境を復元し、地域の皆さんの環境教育の場としての



役割も果たしています。

魚道 川で生活するアユやウグイなどのために、取水ぜきの両岸に魚道を設け、遡上の様子が観察できる観察室も設置しました。

自然林の復元 自然林には二酸化炭素の吸収やヒートアイランド現象を



緩和する能力があります。相模原浄水場の広大な敷地内に自然林を復元し、二酸化炭素削減や地域の温度上昇防止に寄与しています。



環境に優しい水づくり・エネルギーづくり

排出土の有効利用

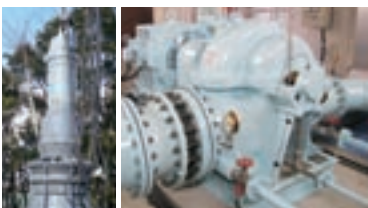
浄水場では、河川から取水した水に含まれる泥などを取り除いて水道水にしています。

浄水場内には、水道水をつくる施設のほかに、その泥の処理を行う施設(排水処理施設)があります。

取り除かれた泥は農・園芸土などに生まれ変わり有効利用されています。



新エネルギー 小水力発電

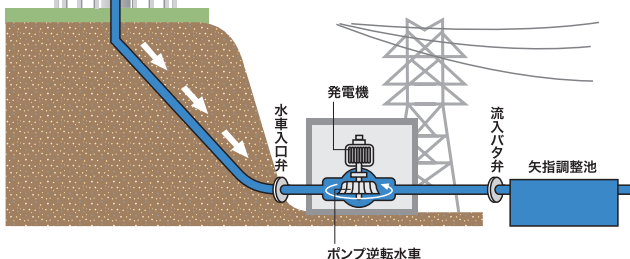


小水力発電システムは、水を送る高低差などを利用して発電するシステムです。

このように、起伏に富んだ日本の地形を利用した未利用エネルギーの活用を積極的に行っています。

自然の条件を利用してつくられたエネルギーは、

CO₂排出がないクリーンなエネルギーとして地球環境対策に大きく寄与するものとして、注目が集まっています。



企業団でも、現在、矢指調整池内と相模原浄水場内の2ヶ所で発電を行っています。その発電量は、一般家庭が1年間に使う電気の500世帯分に相当します。

相模川の河川域には、コアジサシをはじめさまざまな野鳥たちが巣作りをしています。取水ぜき下流には巣作りができるようにエリアを設けています。ビオトープや取水ぜき周辺には「水辺の宝石」と呼ばれるカワセミも姿を見せます。

写真左：虹吹小水力発電所
 写真右：矢指小水力発電所